

ネットワークこそNPOのいのち

担当 常務理事 菅野 ツカサ

- 1) 子ども系NPOにもいろいろある。組織の目的・目標は何か。
 - ①子どもと子育て家庭などへの支援系（つどいの広場）
 - ②文化・芸術系（子ども劇場）
 - ③ネットワークおよび連帯系（日本子どもNPOセンター）
 - ④フリースクール系（東京シューレ）
 - ⑤冒険遊び場・自然体験系（プレーパーク）
 - ⑥政策・研究系（子どもの権利条例づくり）
 - ⑦虐待防止・子ども相談系（チャイルドライン）
 - ⑧子ども環境・食育系
 - ⑨フリーマガジン系
 - ⑩学童クラブ・保育園系（所沢）
 - ⑪そのほか（子どもとメディア・国際子ども支援）など。※社会貢献系・社会改革系のほか、NPOには一般系もある（趣味の団体）

- 2) 情熱から使命（パッションからミッション）、そして「執念」の世界へ。
 - ①ボランティア（奉仕）の世界から市民活動家（改革）の世界へ。
 - ②対話と理解と粘り強い多数派づくり。（威圧・脅かし・暴力とは無縁）
 - ③大きな夢と展望をもって。あきらめない・くじけない・へこたれない。

- 3) NPOの組織にとって欠かせないもの。
 - ①みんなが集まれる拠点づくり（利便性のよい場所の確保と連帯事務所構想）
 - ②地域を変える規模の宣伝・情報媒体をもつ。（社会的影響力の構築と拡大）
 - ③子どもネットワークの構築（子ども系ネットワークから市民活動団体連帯）
 - ④ゆたかなアイデアと企画づくり。（子ども系NPOとの交流と情報交換）
 - ⑤財源の確保。（寄付と独自事業の開拓と展開／助成金に頼らない組織へ）
 - ⑥人材の結集。（専従活動家の配置と生活できる給与の保障へ）

- 4) 子どもと子育て家庭支援と社会改革者の道のり。
 - ①他人のお金をあてにしない決意。まずは「身銭を切る」ことから。
 - ②信用こそNPO活動の基本。（信用されるNPOの条件とは）
 - ③社会貢献に共感する人は必ずいる。（自治体変革の展望・構想と夢を語る）

- 5) 市民自治を大切にす自治体（行政・議会）をつくる。
 - ①首長の考え方で自治体の色合いは違ってくる。
 - ②行政・議会への働きかけ。会派別懇談会などの開催と活動への相互理解。